



ドイツ銀行 AG、2008 年度バーゼル II 第 3 の柱報告書を公表

【2009年5月12日、フランクフルト】—ドイツ銀行AG（銘柄コードXETRA：DBKGn.DE/NYSE：DB）は、本日、2008年12月31日に終了する会計年度で初めて要求される2008年度バーゼルII第3の柱報告書を公表しました。ドイツ銀行AGは、今後も年次ベースで当該報告書を公表していく方針です。当該報告書には、ドイツ銀行グループのクレジット/市場/オペレーショナル/流動性の各リスク情報を含む自己資本の適切性やリスクおよび資本管理に関する情報が含まれています。さらに、証券化や資本エクスポージャー、銀行勘定における金利リスクに関する開示も行われています。

2008年度バーゼルII第3の柱報告書は、www.deutsche-bank.de/ir/en/content/reports_2008.htm からダウンロードすることができます。当該刊行物は、2009年5月20日以降に発行されます。

以 上

ドイツ銀行グループは、グローバル市場で主導的な地位を占める投資銀行であり、個人顧客ビジネスにおいても収益を生む強固な事業基盤を確立しています。ドイツおよび欧州における圧倒的な強みを背景に、北米やアジア、主要新興国において、力強い成長を遂げています。ドイツ銀行グループは、8万277人の従業員を擁し、世界72カ国で幅広い金融サービスを提供しています。当行グループでは、競争の激化するグローバルな市場を舞台に、常に前進を続けるお客さまのニーズに徹底的にお応えしていくことが、株主の皆さまに価値を創造し、私たち自身の成長につながると考えています。

本リリースには、将来の事象に関する記述が含まれています。将来の事象に関する記述とは、歴史的事実ではない記述であり、ドイツ銀行の考えや予想、およびその基礎となる前提が含まれます。これらの記述は、ドイツ銀行グループの経営陣が現在入手可能な予定、推定および計画に基づいています。従って、将来の事象に関する記述は、あくまで当該記述がなされた日現在のものであって、当グループはこれらの記述に関して、新しい情報や将来生じた事象があっても、これを更新して公表する責任は負いません。

将来の事象に関する記述は、その性質上リスクおよび不確実性を含みます。従って、いくつかの重要な要因が作用して、現実の結果を、将来の事象に関する記述に含まれる結果とは大きく異なるものにする可能性があります。これらの要因には、ドイツ、ヨーロッパ、米国および当グループが収益の重要な部分を得ているその他の地域における金融市場の動向、借り手または取引相手による将来の債務不履行、経営施策の実践、当グループのリスク・マネジメントの施策、手続および方法への信頼性、ならびに米国証券取引委員会（SEC）への情報開示に関連するリスク等が含まれます。このような要因については、SECに提出した当グループの2009年3月24日付年次報告書（Form 20-F）の「リスク・ファクター」の表題のもとで詳しく記載されています。当該報告書の写しは、請求により入手可能であり、また www.deutsche-bank.com/ir からダウンロードすることができます。